神話や民話 3日朗読会

鈴鹿

朗読文化の普及を図る一般社団法人「日本朗読協会」（事務局・鈴鹿市）は、「作家ゆかりの地で読む朗読発表会ｉｎ三重」（中日新聞社後援）を、三日午後一時半から同市山本町の椿会館で開く。

協会は二〇一二年に発足。県内外の愛好者らが加盟し、朗読発表会の企画や指導者の養成などに取り組んでいる。発表会は滋賀、愛知、京都に次いで四府県目の開催。

今回は「国のはじまり」「天の岩戸」といった日本神話のほか、昨年暮れに亡くなった郷土史家伊藤俊一さんが書いた「椿神社の一本杉」「鼓ケ浦物語」といった鈴鹿の民話の朗読を、全国の愛好者ら二十人が披露する。来場者も交えた「ごんぎつね」のリレー朗読なども予定している。参加無料。㊐日本朗読協会＝０５９(３９２)７７１０（山本克也）

H28／7／1　中日新聞

地元の民話など情感込めて朗読

鈴鹿で発表会

情感を込めながら朗読する参加者＝鈴鹿市の椿会館で

「作家ゆかりの地で読む朗読発表会ｉｎ三重」（一般社団法人日本朗読協会主催、中日新聞社後援）が三日、鈴鹿市山本町の椿会館で開かれた。

県内外から応募した二十人が語り手となり、「天の岩戸」といった神話のほか、鼓ケ浦海岸や長太（なご）地区の天王祭などを題材にした鈴鹿の民話を、情感を込めて披露した。民話集を再編した同市の郷土史研究家伊藤好夫さん(七九)による解説もあった。

両親と舞台に立って神話を朗読した名古屋市守山区の小学六年小嶋ひよりさん(一二)は「学校での音読と違って緊張したけど、話し終えてほっとした。将来はナレーションの仕事ができたらうれしい」と話した。

発表会は、各地の民話の継承と朗読の普及が目的で四回目。朗読協会では、今後も各県を巡回して発表会を開催する予定という。（山本克也）

H28／7／5　中日新聞